

2023 3

企業系から画廊まで、コンクール百花繚乱!

受賞19作家からの メッセージ

月刊 美術

No.570

Since 1975



駒つなぎの桜 中島千波

美術新人賞
デビュー
2023

入選27作家一挙紹介



《淑蓮》 150×150cm 墨、油彩

チェン・ジャン・ホン 墨と油彩の自在な画法



チェン・ジャン・ホン
1963年中国・天津生まれ。北京中央美術学院に進学し、中国伝統の水墨画を習得。1987年パリに移住。エコール・デ・ポザールにて油彩画を学ぶ。

東洋と西洋、伝統と革新の調和を追求し、やがて墨と油彩を自在に操る独創的な画法を確立。力強い筆勢の線描に、ぼかしや飛沫で描く穏やかな色調が広がり、静謐ながらもエネルギー溢れる生命の崇高性を優美に表現する。これまで蓮をテーマに描いてきたが、近年は風景など日常から着想を得たイメージなど、抽象性の高い新境地を展開。その作品は世界の美術館のほか、パリや東京、上海のランドマークとなる建造物の壁面を飾っている。

Artist
File

N050

木村佳代子／小津航／チェン・ジャン・ホン 吉川民仁／菅原健彦

ギャラリーためなが

東京都中央区銀座7-5-4

☎03(3573)5368

<https://www.tamenaga.com>

展 示 情 報

西洋近代の巨匠作品とフランス画壇の作家たちを長年に渡って日本に紹介してきたギャラリーためながは、近年、欧米やアジアのフェアで日本の現代作家を積極的に紹介している。昨年より新たに画廊での取り扱いを開始した木村と小津をメインに、すでに評価の高いチェン・ジャン・ホン、吉川民仁、菅原健彦の作品を展示。約25点がブースを飾る。

吉川民仁

自然の変化を詩情豊かな絵画空間へ



よしかわ・たみひと
1965年千葉県生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科油絵コース修了。武蔵野美術大学教授。

四季折々に変化する自然、ことに風や光の様相に触発され、自身の眼差しを画面に注ぎこみ詩情豊かな絵画空間を創りだす吉川。左官こてやペインティング・ナイフを用いて絵具を伸ばし、色を重ねたキャンバスをひっかけ、削る。あるいは、ペインティング・ナイフに少量の絵具をとり画面に投げ付け、鮮やかな絵具をキャンバスに点在させるなど、画家の豊かな感性が生み出す様々な描線や深みのある色調が見るものを惹きつける。



《雷雨》 73×61cm 油彩

木村佳代子

花が秘める新しい概念を探求して



きむら・かよこ
1971年東京都生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了。東京藝術大学大学院美術研究科博士課程満期退学。

植物園でフォルム的美しさや面白さを感じる花を選び出し、不必要に美化せず花の持つ存在感を活かし、細い筆を用いて線の重なりで形を描き起こしていく。何層にも絵具を塗り重ねることで生まれる下地の深い奥行きが、画面に独特の風合いを与え、細密かつ鮮やかに描いたモチーフとの対比をより際立たせる。花の秘めたエネルギーの盛衰の中に、宇宙、時間、命、死といった普遍的テーマを落とし込み、新たな花の概念を探求している。

《Oblivion 2022-01》
146×112cm 油彩

《三春》 112×146cm 岩絵具、金箔ほか

菅原健彦

流転する生命のダイナミズム



すがわら・たけひこ
1962年東京に生まれる。多摩美術大学絵画学科日本画専攻卒業。現在、京都芸術大学教授。

1996年山梨での樹齢千年を超える神代桜との運命的な出会いをきっかけに、古木の幹から放たれる生々流転する生命のダイナミズムを極めて独創性高い表現で描く。現在は淡墨桜、三春滝桜、臥龍の松など幅広く題材を求め制作。2012年パリにて開催された個展の成功を皮切りに世界の舞台へ躍進した。

※2月25日～3月19日、銀座・ギャラリーためながにて「菅原健彦展」開催。3年ぶりの個展では、紺の雁皮紙を取り入れた表現や桜以外の新たな題材を加えた新作約35点を披露する。



《Six apples on the ground》 112×146cm 油彩

小津航

気鋭が表現する西洋と東洋の間



おづ・わたる
1991年東京都生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。

2021年パリの展覧会が好評を博し、国内外から注目を集める期待の若手作家。西洋と東洋の美的感覚や表現方法の違いに着目し、両者を掛け合わせることで全く新しい絵画のあり方を模索。身近なモチーフをアトリエの床上に配置した〈on the ground〉シリーズは、西洋の静物画では卓上という限られた空間に配置されるモチーフを、日本的なゆったりとした「間」の中に表現することに成功している。淡く明るい色彩とシンプルで優しい筆遣いによる、ゆったりと構成された画面が癒しを与えてくれる。

第2回 草間彌生 版画展

3月17日～4月8日 ●銀座・永井画廊 ☎03(5545)5160

草間芸術のひとつのキーワードが「反復、増殖、連鎖」。複数芸術である版画制作は、草間にとってタブロー、オブジェと並び特別な思いがある。3月22日の誕生日に合わせた2回目の恒例展で、草間ワールドに浸る。

草間彌生 かぼちゃ(OG)
38.0x45.7cm 紙、スクリーンプリント
1992年



エル キャピタン 十三代 三輪休雪展

3月15日～20日 ●日本橋三越本店 本館6階 美術特選画廊 ☎03(3241)3311

襲名後初となる個展。アメリカ遊学時に訪れたヨセミテ国立公園にある一枚岩の圧倒的な存在感に着想を得て制作された《エル キャピタン》をはじめ、薬師寺国宝東塔の基壇土を使用した《淵淵》など、“休雪白”と呼ばれる独特の釉調の茶碗32点を展観。



十三代 三輪休雪 エル キャピタン 陶

ルオー展

開催中～3月12日 ●ギャラリーためなが大阪 ☎06(6949)3434

キリスト教の信仰心を背景に人間の本质を問う重厚な絵画表現で知られるジョルジュ・ルオー。今展では油彩を中心に、初期から晩年までの名品約30点を紹介。70年に及んだ巨匠の足跡を見つめる。



ジョルジュ・ルオー 法廷 油彩 1938年

Cutie Family's Love at the Time and after Corona 展

開催中～3月26日 ●京都・AMMON KYOTO ☎075(366)4400

ボクシング・ペインティングで知られる篠原有司男、妻で《Cutie》シリーズを発表する乃り子、息子で画家の篠原アレックス空海による家族三人展。新作を中心に。



篠原有司男 Black and Red on White
アクリル、キャンバス 184x481cm 2013年
©Ushio + Noriko Shinohara, courtesy of ANOMALY

横山 徹 個展

3月6日～18日 ●南青山・始弘画廊 ☎03(3400)0875

1954年滋賀県生まれ、金沢美術工芸大学卒業。二紀展を中心に活動、個展、グループ展多数。今展は長く教鞭をとった青山学院大学退官記念。「素材との対話」をテーマに自身の内面性を投影した造形表現の粋を観る。



横山 徹 Existence 小松石

秋山保久展

2月21日～3月5日 ●日本橋・ちばざんひまわりギャラリー ☎03(3270)8898

1956年千葉県生まれ。多摩美術大学卒業。大気中の光や粒子、それらの流れや動きから季節の形や色を見出し、画面に再構築。1回目の個展の制作場所に戻り、当時の作品の横で初心に戻って制作した作品群を。



秋山保久 夏の音 ミクストメディア



小竹青史 《四方石山》 120M

常設展

11:00-18:00
土・日・祝日休廊

彩鳳堂画廊

Saihodo Gallery

〒104-0031

東京都中央区京橋3-3-10 第1下村ビル2階

tel. 03-6262-0985 fax. 03-6214-0418

e-mail saihodo@mba.nifty.ne.jp

http://saihodo.com/

